

生活保護申請 1月も増加 前年同月比

生活保護の利用申請の増加傾向が続いている。2度目の緊急事態宣言が出た1月の申請は2万61件で前年同月比7.2%増となり、昨年9月から5カ月連続で前年同月を上回った。新型コロナウイルスの感染急増による厳しい経済状況を反映している。厚生労働省が7日発表した。

生活保護申請が2万件を超えるのは、1度目の緊急事態宣言が出た昨年4月以来。前年同月からの申請件数の伸び率は増加しており、今年1月はこの5カ月間で最も高かった。コロナ禍の中で比べ

ると、昨年4月の24.9%増、同3月の7.4%増に次ぐ3番目の伸びだった。

増加傾向が続く背景について、厚労省の担当者は「厳しい雇用情勢が長引くなかで、貯蓄が尽きるなどして生活保護に至る人が増えてきていることも考えられる」と話す。困窮する人が増える中、厚労省は「生活保護は国民の権利」との呼びかけを強めている。

1月に生活保護の利用を始めた世帯数は1万6072世帯で、前年同月比8.2%増だった。

(久永隆一)